

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 23 (R3. 10. 27発行) 文責 校長 福田雅也

スーパースターはいませんが、スーパーチームです

「強くボール持って！何してるんですか！何回も同じことしないでいいじゃないですか！」

この言葉は、今回の東京オリンピック5人制バスケットボール女子の決勝戦、日本代表対アメリカ代表の試合で、日本の選手が連続してボールを奪われた際に、監督が選手に言った言葉です。

この監督の名前は「トム・ホーバス」。厳しい内容を、丁寧な言葉で選手に伝える。その発音は、日本人とは少し違う外国人特有のもの。そして、この決勝戦で敗れはしたものの、オリンピックでの銀メダル獲得という偉業を成し遂げた、そんな人です。

オリンピックでの試合を見て興味が湧いたので、トム・ホーバス監督について少し調べてみました。興味を持った理由の一つが、試合中の言葉が丁寧なことだったので、まずそのことを調べてみました。すると、その理由と思われることが見つかりました。次のような話をされているのです。

「スポーツもビジネスでも、信頼関係の中で尊敬がなかったらいい関係ができません。厳しく言っても、ちゃんと尊敬すること。試合の後や次の日にフォローアップが必要です。」

この気持ちが、試合中の言葉にも表れているのだらうと感じることができました。

また、こんなことも発言しています。「4年後、決勝戦でアメリカに勝つ！」

この言葉は5年前のリオオリンピックでベスト8に入ったときにホーバス監督が言った言葉です。5年前のリオオリンピックではホーバス監督はアシスタントコーチとして参加していました。ベスト8で終わった後にインタビューでこのような発言をしました。そしてこの言葉どおり、東京オリンピックでは決勝戦でアメリカと対戦しました。結果は負けてしまいましたがアメリカとの対戦までは実現することができたのです。日本人がバスケットボールで銀メダルを取るなんて、ほとんど誰も予想してなかったと思います。

この言葉は、次のような信念から発せられたもののようです。

「信じてないなら優勝できない。信じてないなら大きいチームに勝てない。自分の力を信じていないなら何もできないと思います」「僕は本当に、金メダルを取れるという気持ちが心からあります」

そして、東京オリンピック決勝が終わった後に、ホーバス監督は日本代表選手たちをつぎのような言葉で表しました。

スーパースターはいませんが、スーパーチームです

世界各国の女子バスケットボール選手と比べると、日本人選手はどうしても小柄で、体格・体力的に外国人選手にはとうていかないません。そこで、ホーバス監督は、チームとして外国チームに対抗できるよう100通り以上のフォーメーションを選手に身に付けさせました。また、その複雑な動きと徹底したチームディフェンスを試合中にずっと持続できるよう、ハードな練習メニューが課されていました。心拍数を高めた状態で長時間動けるようにするためです。「練習の方がきついです。試合の方が楽に感じるほど」とキャプテンの高田選手は話しています。その結果、多彩な攻撃、徹底したチームディフェンス、効果的な3Pシュートなどを身に付け、選手が交代しても試合の流れが変わることなくチームとして力が発揮でき、ひとりひとりが輝けるスーパーチームが育ったのです。

負けた試合の後に、自分が育てたチームを「スーパーチーム」と言い切ることができることに、選手とともに積み重ねてきたことへの自信を感じることができず。とても素敵な言葉です。

ホーバス監督の言葉や考えから、バスケットボールに限ったことではなく様々な事が学べます。それらはどれも、あたりまえと言えればあたりまえのことばかりです。東京オリンピック後、ホーバス監督は5人制バスケットボール男子日本代表の監督に就任しました。今後のホーバス監督と男女日本代表の活躍を期待するとともに、今回、改めて学んだこと感じたことを、今後の子どもたちとの生活に少しでも生かしていけたらと思います。